

## MURC Focus

# ロシア産 LNG を輸入し続ける EU

## ～天然ガスの脱ロシア化までの道のりは遠い

調査部 副主任研究員 土田 陽介

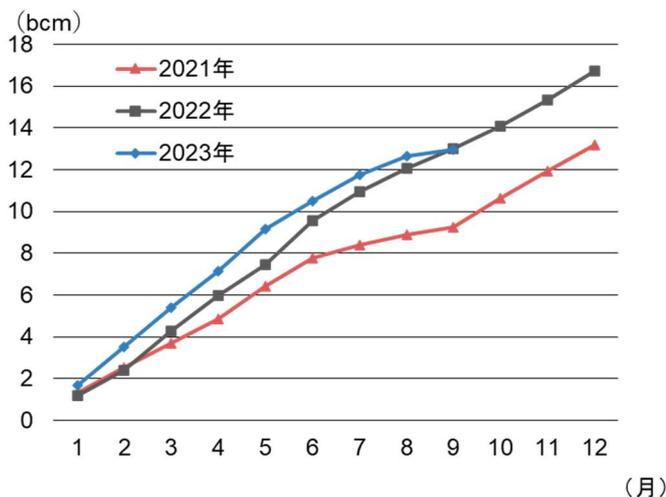
- EU は化石燃料の「脱ロシア化」を図っているが、一方でロシア産の LNG を輸入し続けている。EU の2023年1-9月期のロシア産 LNG 輸入量は13.0bcm と、前年同期と同水準となった。
- EU がロシア産 LNG の輸入を続ける背景には、EU が天然ガス価格の安定のために、ロシア産 LNG の輸入を続けなければならないという現実がある。
- 他方で、ガス輸出に伴う収入を確保するなら、ロシアは否応なしに、LNG をヨーロッパ向けに輸出せざるを得ない。EU とロシアの双方の思惑が交錯する中、EU の天然ガスの脱ロシア化は、今後、停滞を余儀なくされよう。

### (1) 2023年も昨年並みのロシア産 LNG を輸入する EU

欧州連合(EU)は化石燃料の「脱ロシア化」を図っているが、一方でロシア産の液化天然ガス(LNG)を輸入し続けている。EU の2023年1-9月期のロシア産 LNG 輸入量(荷渡地ベース)は13.0bcm (bcm: 10億m<sup>3</sup>)と、前年同期と同水準となった(図表1)。とはいえ、そもそも EU が2022年にロシアから輸入した LNG の量も、脱ロシア化を謳う前の2021年に比べると、年間で26.8%増加していた。

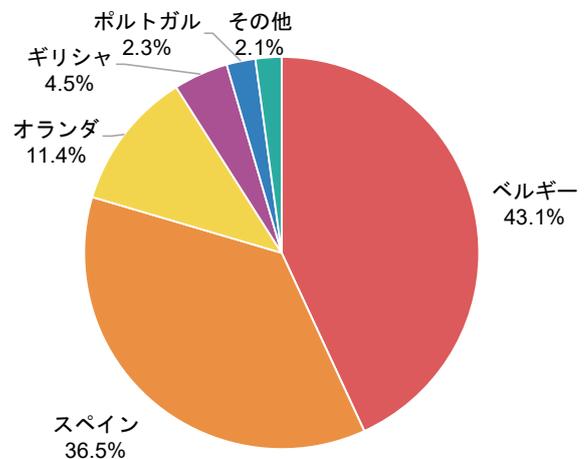
2023年1-9月期にロシアから LNG を輸入した EU の国は、ベルギーの43.1%を筆頭に、スペイン(36.5%)やオランダ(11.4%)など臨海部の国々である(図表2)。こうした国々は、ロシアがウクライナに侵攻した2022年2月以前から、ロシアより LNG を輸入していた。ロシア産 LNG の輸入は EU の規制対象となっていないため、ベルギーなどはロシア産 LNG を輸入し続けている。

図表1. EU のロシア産 LNG 輸入量(年初来累計値)



(注)荷渡地ベース  
(出所)欧州連合統計局(ユーロスタット)

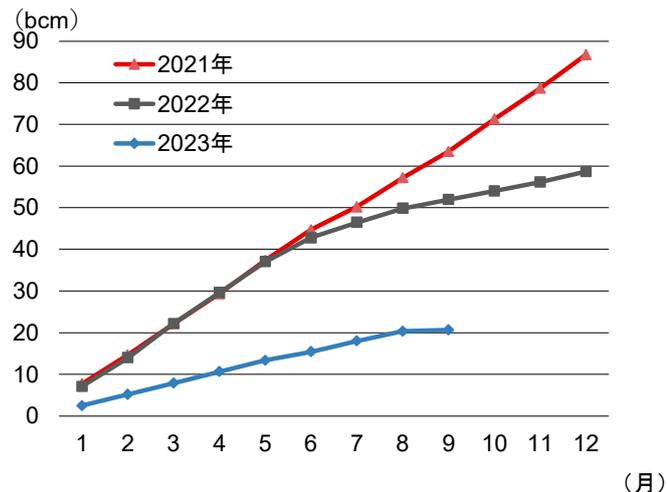
図表2. LNG を輸入した国々(2023年1-9月期)



(注)荷渡地ベース  
(出所)ユーロスタット

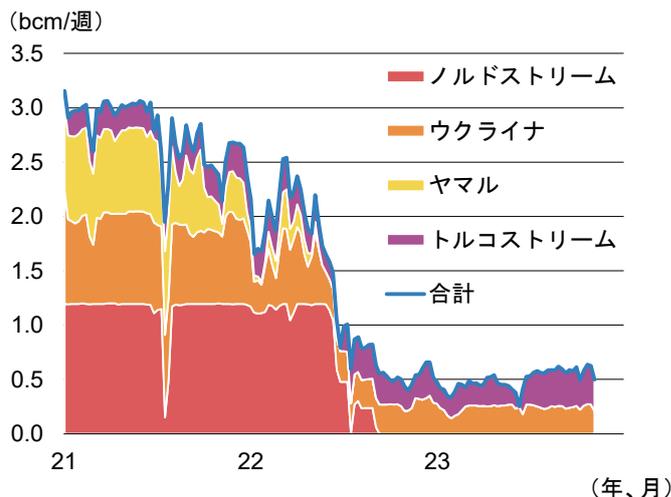
もともと、EU の2023年1-9月期のロシア産天然ガスの輸入量そのものは前年比60.3%減と、大幅に減少している(図表3)。EU がロシア産天然ガスの利用の削減に努めていることに加えて、ロシア自身が EU 向けにパイプラインを経由した天然ガスの輸出を停止したことの両面から、EU が輸入するロシア産天然ガスの輸入量は減少しているのである(図表4)。

図表3. EU のロシア産天然ガス輸入量(年初来累計値)



(注)荷渡地ベース  
(出所)欧州連合統計局(ユーロスタット)

図表4. EU のパイプライン経由での天然ガス調達経路



(注)週次  
(出所)Bruegel European natural gas imports Dataset

## (2) 天然ガス価格の急騰に備えた対応

つまり、EU による天然ガスの脱ロシア化は、天然ガス全体で考えれば進捗しているものの、LNG に限定すると、ロシア依存の軽減が進んでいないばかりか、むしろ依存を強めている状況にあると理解される。こうしたアンビバレントな状況が生じている背景には、EU が天然ガス価格の安定のために、ロシア産 LNG の輸入を続けなければならないという現実がある。

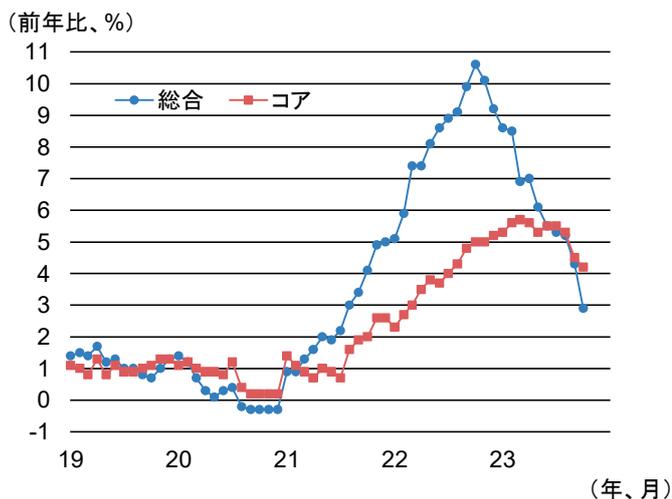
そのことは、EU がロシア産 LNG を禁輸対象としていないことが、明確に物語っている。2023年後半に EU の議長国を務めるスペインのテレサ・リベラ第3副首相兼エネルギー相は、9月に行われたロイター通信とのインタビューで、現時点でロシア産 LNG の輸入を禁止する計画はないと明言している<sup>1</sup>。天然ガスの価格が高騰する事態を防ぐためというのが、その主な理由である。

ロシア発のエネルギーショックを受けて、EU は2022年に歴史的な高インフレを経験した。特に、天然ガスの価格が急騰したことが、EU 全体の物価を押し上げた。直近10月のユーロ圏の消費者物価(図表5)は前年比2.9%上昇まで落ち着いてきたが、歴史的な高インフレを経験した EU としては、再び天然ガス価格が急騰し、それが高インフレにつながる展開を警戒せざるを得ない。

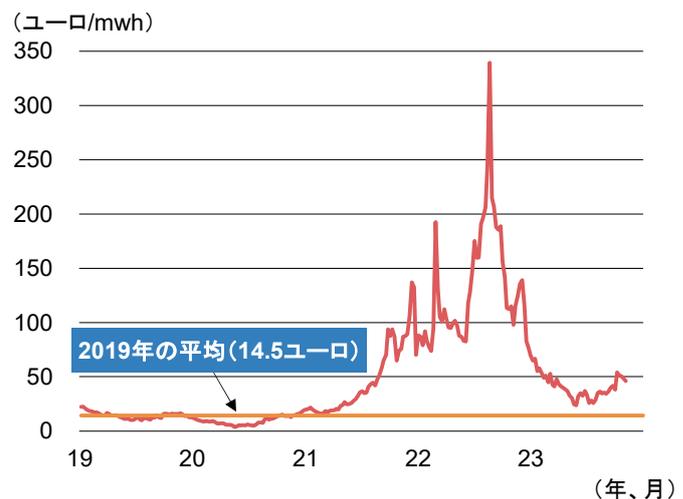
<sup>1</sup> 「EU、現時点でロシア産 LNG の輸入禁止計画せず＝議長国」ロイター通信(2023年9月8日付)

ヨーロッパの天然ガス価格(オランダ TTF 先物)は、2023年夏場にメガワット時あたり20ユーロ台で安定した(図表6)。しかし、その後は冬季の需要期をにらんで価格が徐々に上昇し、10月に入って中東パレスチナ情勢緊迫化で供給不安が意識されたため、一時50ユーロ台まで価格が急騰した。このように天然ガス価格が依然として不安定な状況に鑑みれば、EU はロシア産 LNG の削減を進めることができない。

図表5. ユーロ圏の消費者物価



図表6. ヨーロッパの天然ガス価格(オランダ TTF 先物)



### (3) ロシアにとっても引き続き重要なヨーロッパ市場

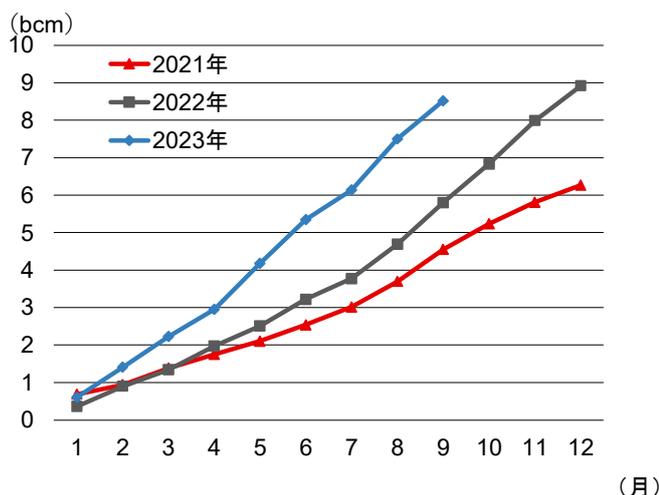
EU は化石燃料の脱ロシア化に努めているにもかかわらず、ロシア産 LNG への依存を強めるというアンビバレントな状況にある。他方で、ロシアもある意味では同様のジレンマに陥っている。ロシアは天然ガスの輸出をヨーロッパからアジアにシフトさせようと躍起になっているが、最大の需要家である中国との間を結ぶガスパイプラインは「シベリアの力」の一本だけである。

当然、「シベリアの力」だけでは、中国に輸送できるガスの量に限界がある。そのため、現在、両国で建設を協議している新たなガスパイプライン「シベリアの力2」に対する期待が高まっているが、その稼働までには中長期の歳月を要する。それに、実際に稼働したとしても、結局は中国という需要家の方が立場の強い取引となるため、ロシアが十分に外貨収入を得られるか定かではない。

またロシアは、中国に対して LNG も輸出している。中国海関総署によれば、2023年1-9月期の中国のロシア産 LNG 輸入量は前年比46.7%増の8.5bcm まで増えたが、いつまでもこうした増勢が保てるわけではない(図表7)。ロシアがさらに中国向けの LNG を増やすためには、中国が LNG の再気化設備を増強するか、ロシアが自国産の LNG を他国産よりも安価に設定する必要がある。

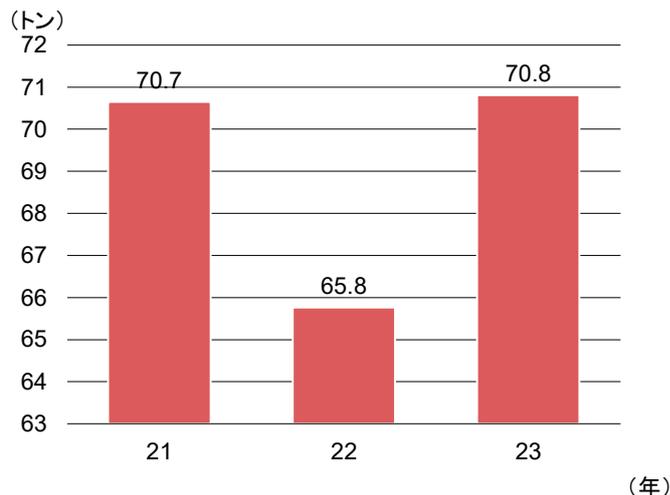
またロシアは、アジア各国に LNG の長期契約を持ちかけている。しかし LNG を受け入れるには、受け入れ側のアジア各国が洋上ターミナル (FSRU) や再気化施設などの設備を整える必要がある。したがって、ロシアがアジア各国に LNG の輸出を増やそうとしても、中長期の時間を要するし、また相応に安価な価格で提供しない限り、スイッチングはそう簡単に進まない (図表8)。

図表7. 中国のロシア産 LNG 輸入量 (年初来累計値)



(注)パイプラインを経由した天然ガスの輸入データは2021年12月を最後に公表が停止されている。  
(出所)中国海関総署

図表8. 参考: インドのロシア産 LNG 輸入量



(注1)HS コード2711110番のみ  
(注2)インドは天然ガスの輸入の4割をカタールに依存している  
(出所)インド商工省商務局

結局、ガス輸出に伴う収入を確保するなら、ロシアは否応なしに、LNG をヨーロッパ向けに輸出せざるを得ない構造にある。EUとロシアの双方の思惑が交錯する中で、EUの天然ガスの脱ロシア化は、今後、停滞を余儀なくされるだろう。2027年までのロシア産化石燃料の排除という目標の達成も、有耶無耶になる可能性は否定できない。

— ご利用に際して —

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所: 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。